

寒さに負けず 絵札をめぐる熱戦！

白川小学校「動くジャンボカルタ取り大会」

1月24日、縦約50cm、横約40cmの絵札を背負って逃げ回る児童を追いかける、白川小学校の冬の恒例行事「動くジャンボカルタ取り大会」が行われました。

この日は、全校児童51人が参加し、学年縦割りの3チームに分かれて絵札の獲得枚数や出来栄などで得点を競いました。絵札や読み札はすべて児童たちの手作りで、46回目となる今年のテーマは「白川地域」。「うまい米 うなずくたびに 笑顔出る」などとカルタの札が読み上げられると、一斉に逃げる絵札を追いかけ、追う側も逃げる側も寒さに負けず校庭を走り回っていました。また、この春同小へ入学予定の園児たちも3年ぶりに参加し、交流を深めていました。

参加した児童は「絵札を取られないように逃げ回るのも、走って取るのもどちらも楽しかったです」と元気に話してくれました。



1



2

1_見つけた！ 追う側も逃げる側も全力疾走！ 2_絵札まであともう少し！

白石の伝統文化に触れる

伝統文化体験授業「白石和紙づくり体験」

小原中学校は、生徒に白石の伝統文化である白石和紙に直接触れて理解を深めてもらおうと、「白石和紙蔵富人」の協力を得て2年生が自身の卒業証書の用紙にする「白石和紙作り体験」を行いました。

昨年12月に校内で栽培した和紙の原料となる「虎斑楮」を収穫し皮はぎを行いました。1月23日には、壽丸屋敷で和紙漉きに挑戦。原料処理をした虎斑楮と「トロロアオイ」を冷水を張った漉き槽で混ぜ、「すげた」という型枠を使って講師の手ほどきを受けながら漉き上げました。参加した生徒は「自分で作った和紙で卒業証書がもらえると記念になるのでうれしいです」と話してくれました。

「白石和紙蔵富人」は白石和紙を生産する唯一の事業者で伝統継承に向けた長年の取り組みが評価され、本年度、県の伝統的工芸品製造業者に指定されました。



1



2

1_講師の指導を受けながら「すげた」を使って紙漉きに挑戦 2_蒸した虎斑楮の皮むき作業をする生徒

大人の自覚と決意を新たに

令和4年度二十歳を祝う会「募金の寄付」

2月3日、本年度の二十歳を祝う会で集めた募金の贈呈式を行いました。この募金は「大人として社会に貢献したい」と20歳を迎えた参加者が自らの意志で行ったもの。集まった募金の4,537円は「子どもから高齢者の方が暮らしやすい地域づくりに役立ててほしい」と白石市社会福祉協議会へ寄付しました。二十歳を祝う会実行委員長の佐藤茉莉衣さんは「思いやりを持ち、誰とでも平等に接することができる人になりたいです」と話してくれました。



▲贈呈式に出席した佐藤茉莉衣さん（左）と朝倉秀雄社会福祉協議会長（右）

心の鬼も鬼退治！

第二幼稚園「豆まき誕生会」

2月2日、第二幼稚園で「豆まき誕生会」を開催しました。節分の豆まきと2月生まれの園児の誕生会に園児60人が参加。園児たちは先生が豆をいる様子を観察したり、節分でイワシの頭や柊の葉を飾る説明を熱心に聞いたりしました。その後、誕生会を遊戯室で行っているときに2匹の鬼が突然登場。園児たちは準備していた紙を丸めた「豆」を一斉に投げつけて鬼を退治しました。鬼退治後には「福の神」が現れ、園児にお菓子の福を届けてくれました。



▲園児みんなで協力して「鬼は外！」

優勝目指して一致団結

第32回白石市スポーツ少年団交流大会

2月12日、「第32回白石市スポーツ少年団交流大会」をホワイトキューブで開催しました。この大会は、レクリエーションを通して団員間の交流を深め、青少年の健全育成を目的に開催。3年ぶりに行った大会には、9団体10チーム約150人が参加しました。

各団体の戦いは、白石清球会エンゼルスと白石ソフトテニスAが同点で並び、協議の結果、大縄跳びで跳んだ回数が多かった白石清球会エンゼルスが優勝の栄冠を手に入れました。



▲チーム一丸で優勝を手にした白石清球会エンゼルス